

<第4議案>

2019年度収支予算(案)

18ページに2019年度収支予算案を示す。

<全体説明>

2019年度前半は、常勤スタッフ1人、パート雇用1人体制とし、後半は、常勤スタッフ2人体制を維持することを前提にする予算とした。

1. 会費収入について

18年度決算(481万円)をやや上回る額の500万円を目標とする。18年度決算額に比して19万円の増額となる。

2. 事業収入・支出について

事業収入は18年度決算比約115万円の増額を見込む。

- 「イアブック」2019販売収入は140万円、経費80万円で、差引60万円の収益を見込む。「イアブック」2018販売収入は60万円を見込む。
- 「情報サービス・調査受託」収入として、18年度決算とほぼ同じ200万円を見込む。事業支出は、18年度決算比、約115万円の増額を見込む。
- 4～5月の20年NPT再検討会議・第3回準備委員会(ニューヨーク)への派遣費用として計30万円を見込む。
- 「事業委託費」は、米軍関連の調査謝金(年約20万円)に当てる。
- 「事務委託費」として会計業務に40万円を当てる。
- 「消耗什器備品費」に事務所コンピューター・システムの近代化費用として60万円を当てる。

3. 寄付金収入について

一般寄付金は夏季、冬季を含めて90万円を目標に設定する。海外派遣費用に充当するための海外派遣寄付金は30万円を見込む。

4. 助成金収入について

各種助成団体への申請、「よこはま夢ファンド」への助成金申請(財源は同ファンドへの市民からの寄付金)によって、250万円を確保することを目指す。またアユス仏教国際協力ネットワークの「NGO組織強化支援事業」として180万円の支援金を受けることが決定している。

5. 管理費について

- 2019年度前半は、常勤スタッフ1人、パート雇用1人体制とし、後半は、常勤2人体制として、「給料・手当」、「法定福利費」、「福利厚生費」などの所要額を見込む。
- その他費用は18年度決算額を基準とし、所要の調整のうえ積算した。

—以上